

2020・2021年度

広島県失語症者向け意思疎通支援者
養成事業・派遣事業

実施報告書



主催	広島県 広島市 福山市 呉市
主管	一般社団法人 広島県言語聴覚士会

2018 年より失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業、2019 年度から失語症者向け意思疎通支援者派遣事業が始まりました。すでに、養成研修事業開始から 4 年が経過しました。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により養成・派遣事業ともに足踏みをしました。残念ながら 2020 年度の養成研修を修了することができませんでした。今年度は 2020 年度と 2021 年度の研修を無事に修了することができました。2 年分の報告書を作成しましたので、お届けします。ご覧いただければ幸いです。

失語症は症状の複雑さと多様さにより一般市民の方の理解が十分とは言えません。病院での入院リハビリテーションを終えて、地域に帰られた失語症の人やご家族が受ける病前生活とのギャップや心情は計り知れないものがあります。特に、今の世の中はコミュニケーションの重要性が声高くいわれ、加えて、その正確さを求められます。失語症の人にとっては生きづらい世の中になっています。

他方、一般市民の方から誕生した失語症者向け意思疎通支援者は、支援活動を通して失語症の人が持つ問題に気づき、活動の拡大や啓発活動をしたいという希望を持つようになっていきます。小さな変化ではありますが、一般市民の方への取り組みがこのような変化を生んだものと感じております。

今後、この事業を継続・拡大していき、県内各地に失語症の人への支援が広がることを願いながら、活動を頑張っていきたいと思えます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2022 年 3 月

一般社団法人 広島県言語聴覚士会
失語症者向け意思疎通支援作業部会
代表 沖田啓子

目次

はじめに

目次

1.	あいさつ	1
2.	失語症者向け意思疎通支援者とは	2
3.	失語症者向け意思疎通支援者養成研修	
	・ 2020 年	4
	・ 2021 年	10
	・ 受講生のことは	16
	・ 支援言語聴覚士のことは	18
	・ アンケート結果 2018 年～2021 年	20
4.	失語症者向け意思疎通支援者派遣事業	
	・ 実施状況	24
	・ 失語症の人のことは	30
	・ パイオニアのことは	31
	おわりに	32

1. あいさつ

令和3年度広島県失語症者向け意思疎通支援者養成研修修了式にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

当講座の受講者の皆様におかれましては、本日修了式を迎えられました。本当にお疲れ様でした。

とりわけ昨年度・今年度ともコロナ禍における開催となり、長期に亘っての受講となり仕事など日頃の生活に加えての受講ということで、負担も大きかったと存じますが、皆様の情熱と頑張りに深く敬意の念を表します。

失語症の方への意思疎通支援は、言語によるコミュニケーションに制限がある中で、丁寧に相手の意図を汲み、一人ひとりに応じた多種・多様な方法や技術、時には忍耐も必要としますが、心と心が通じ合う喜びも大きいことと思います。

皆様におかれましては、研修で培ったスキルを実践いただき、失語症の方々が他者との関わりを通じ、人生を豊かに生きるためのお手伝いをしていただければ幸いです。

また、この講座の運営に当たり多大な御協力をいただきました、広島県言語聴覚士会の皆様、大変お忙しい中、感染対策、リモートの利用等も行い研修の円滑な実施のために御尽力いただき、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

終わりに、受講者の皆様の御活躍と広島県言語聴覚士会の今後の益々の御発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、修了の挨拶とさせていただきます。

令和4年1月9日

広島県 健康福祉局 障害者支援課
自立支援担当監 加川 伸

2. 失語症者向け意思疎通支援とは

失語症者向け意思疎通支援者は、失語症の方のコミュニケーションを支援します。聴覚の障害を抱える人に手話通訳者が養成派遣されるように、失語症の方には意思疎通支援者が必要です。その存在はことばのバリアフリーを実現します。

失語症は、脳卒中や脳外傷などによっておこる後天的な言語機能の障害です。大脳の言語機能を司る言語の領域が障害されると、聞く、話す、読む、書くことが多かれ少なかれ困難になります。

言葉が難しくなった状態での社会生活は、交友関係をはじめ仕事の継続や余暇を楽しむ活動等、さまざまな場面で困難が生じます。

失語症の方は自身の中にあるたくさんの思いが伝えられない、そして、そのような自分の苦しささえもことばで説明することが難しいのです。

意思疎通支援者は、失語症に関する知識と会話技術を身につけます。

意思を聞き、伝える支援によって、言語の困難さで覆い隠されている失語症の方の本来の能力が引き出されます。

その支援は、失語症の方がコミュニケーションの難しさから諦めていた社会参加へ、また踏み出そうと思える大きな一歩になります。

この事業は、障害者総合支援法の見直しに基づき、2018 年度に公的サービスとしてスタートしました。

4年にわたる事業は、「これまで失語症を知らなかった」という方、「意思疎通支援者の存在を知らなかった」という失語症当事者の方も含めた多くの方々との出会いをもたらしています。

失語症の方の社会参加を促進するべく、意思疎通支援者の活躍が大いに期待されています。



広島県言語聴覚士会では「失語症者向け意思疎通支援者を知っていますか？」
「失語症について知りたい/失語症の人を支援する方法について知りたい」の
パンフレットを作成し、HPに掲載しています。

□ 失語症者向け意思疎通支援者を知っていますか？

失語症者向け意思疎通支援者を利用するためには

登録が必要

- 登録を希望される失語症の方は広島県言語聴覚士会へご連絡ください
- 利用登録手続き（広島県）後、失語症の方に利用開始の連絡が入ります

登録後の利用には

- 利用希望内容、日時を広島県言語聴覚士会へご連絡ください
- 登録している意思疎通支援者と失語症の方との調整を行います

一般社団法人広島県言語聴覚士会
Tel 082-921-3230
Fax 082-921-3237
E-mail hiroshimastkai@yahoo.co.jp
HP <http://www.hiroshimastkai.jp/>

失語症のあなたと話したい

失語症者向け意思疎通支援者を知っていますか？

425 失語症の日
APHASIA DAY

広島県失語症者向け意思疎通支援者派遣事業

失語症は脳卒中などによっておこることの多い障害です

話すこと、聞くこと、書くこと、読むことが難しくなります

失語症になると会話が難しくなります

外へ出るときをきめたり、社会の中で孤立しがちになります

緊急時や災害時の支援が受けにくくなります

失語症の人を支援する意思疎通支援者とは何ですか？

広島県が主催する40時間の研修を受講して、取得する資格です

失語症の方と会話を行うための技術を身につけています

失語症の方の気持ちを理解し、失語症の方と社会を結ぶためのサポートをします

意思疎通支援者がサポートします

- 会話の支援**
ご友人との会話や、失語症の集いの会、サロンでの会話のお手伝いをします
- 交通機関の利用**
路線バス、時刻表、アナウンスなどを理解するためのお手伝いをします
- 会議への参加**
会議の内容の理解・発言をお手伝いをします
- 公共施設の利用**
銀行、役所、郵便局等での手続きのお手伝いをします
- 買い物や娯楽施設の利用**
趣味や余暇活動を楽しむためのお手伝いをします
- その他、実施団体が適当と認めた支援**

利用費用は原則無料

失語症の人に費用負担が生じる例
映画、コンサート、食事などに同行した場合
は意思疎通支援者分の料金の支払い

意思疎通支援者の移動の交通費用が2000円を超える場合、超過分の費用

□ 失語症について知りたい/失語症の人を支援する方法について知りたい

『失語症』
について知りたい

失語症を支援する方法について知りたい方は裏面へ

広島県失語症者向け意思疎通支援事業

（主催）広島県 広島市 福山市 呉市
（主幹）一般社団法人 広島県言語聴覚士会

失語症の人を『支援する方法』について知りたい

失語症について知りたい方は裏面へ

一般社団法人 広島県言語聴覚士会

（問い合わせ先）失語症者向け意思疎通支援者派遣事業

（電話番号）082-921-3230

（問い合わせ時間）月・水・金 9時～14時

（問い合わせ先）失語症者向け意思疎通支援者派遣事業

（問い合わせ先）失語症者向け意思疎通支援者派遣事業

3. 失語症者向け意思疎通支援者養成研修



第1回

講義
実技

開講式／失語症概論／派遣事業と意思疎通支援者の業務／コミュニケーション支援技法／支援実習

第2回

講義
実技

意思疎通支援者の心構えと倫理／身体介助の方法／身体介助実習

第3回

講義

失語症のある人の日常生活とニーズ／失語症概論／コミュニケーション支援技法／意思疎通支援者とは何か

第4回

講義
実技

コミュニケーション支援技法／支援実習

第5回

講義
実技

外出同行支援／コミュニケーション支援実習

第6回

実技

外出同行支援実習

第7回

実技

外出同行支援実習

第8回

実技

コミュニケーション支援実習／認定テスト

第9回

修了式／今後の活動について

第1回

2020年8月2日(日) 福山

開講式／失語症概論／派遣事業と意思疎通支援者の
の業務／コミュニケーション支援技法／支援実習

11名の受講生を迎えての開講となりました。
コロナ禍での開催で不安が多い中、ソーシャルディスタンスをとり、マスク、
フェイスシールド着用での開催となりました。



第2回

2020年8月23日(日) 福山

意思疎通支援者の心構えと倫理／身体介助の方法
／身体介助実習

理学療法士、作業療法士の指導の下、身体介助実習
を行いました。

トイレ移乗や車いす駆動など悪戦苦闘しました。
夏場の開催であったため、感染対策をすることで
汗をかきながらの関わりとなりました。

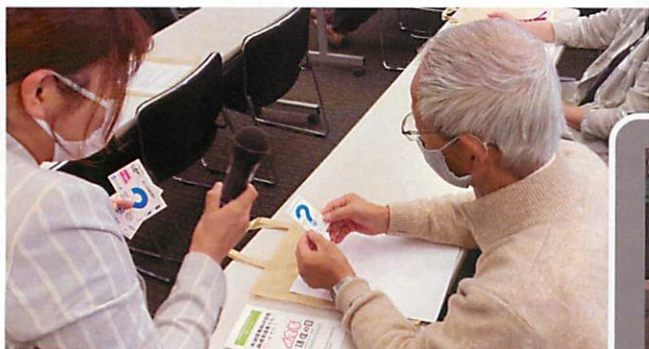


第3回

2020年10月18日(日) 福山

失語症のある人の日常生活とニーズ／失語症概論／
コミュニケーション支援技法／意思疎通支援者とは何か

午前中はコミュニケーション支援技法の講義がありました。午後からは一般市民の方が参加する市民公開講座を実施しました。福山での市民公開講座は初開催です。講演と動画を供覧して、一般市民の方に失語症を知って頂く良い機会となりました。

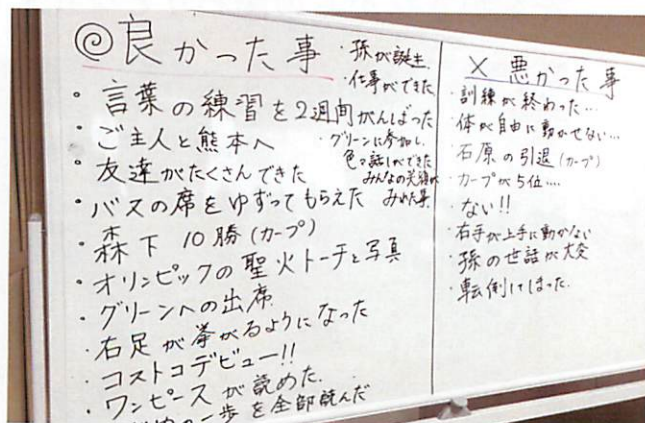


第4回

2020年11月28日(土) 広島

コミュニケーション支援技法／支援実習

失語症の人の集まり「Green」に参加し、支援の様子を見学しました。失語症の人と初めて会う受講生がいました。



第5回

2021年4月17日(日) 広島

外出同行支援／コミュニケーション支援実習

コロナの影響により、5か月振りの開催です。
失語症の人とコミュニケーション実習を行いました。
久しぶりの開催で、悪戦苦闘する場面が多々見られました。



第6回

2021年7月17日(日) 福山

外出同行支援実習

失語症の人と外出同行支援の実習を行いました。
周辺地図を広げて、外出したい場所を探して、道順や時間など計算して出発。
初めて歩行介助や買い物支援を行いました。



第7回

2021年10月23日(土) 福山

外出同行支援実習

前回と同様に外出支援実習を行いました。今回は街中での支援であったため、多くの人や車などへ配慮をしながらの実習となりました。



第8回

2021年11月27日(土) 広島

コミュニケーション支援実習／認定テスト

いよいよ認定テスト。

今年度より実際に失語症の人にご参加いただき、当事者の指摘を評価に入れました。当事者ならではの厳しい視点が多くありました。



第9回

2022年1月9日(日) オンライン

修了式

2021年度生とともに修了式に臨みました。
5名の受講生が無事修了しました。

第3-4号

修了証書

氏名 [REDACTED]

生年月日 [REDACTED] 年 [REDACTED] 月 [REDACTED] 日

あなたが次の研修を修了したことを証します

令和3年度広島県失語症者向け意思疎通支援者養成研修

令和4年1月9日

広島県知事 湯崎 英彦



2021 年

カリキュラム



第1回

講義
実技

開講式／失語症概論／コミュニケーション支援技法／支援実習

第2回

講義
実技

意思疎通支援者の心構えと倫理／身体介助の方法／支援

第3回

講義
実技

コミュニケーション支援技法／支援実習

第4回

講義
実技

派遣事業と会話支援者の業務／コミュニケーション支援実習

第5回

講義
実技

失語症のある人の日常生活とニーズ／コミュニケーション支援実習

第6回

講義

身体介助方法／身体介助実習

第7回

実技

外出同行支援／外出同行支援実習

第8回

実技

コミュニケーション支援技法／支援実習

第9回

講義
実技

コミュニケーション支援実習／認定テスト

第10回

実技

コミュニケーション支援実習／修了式／今後の活動について

第1回

2021年8月8日(日) オンライン

開講式／失語症概論／コミュニケーション支援技法／支援実習

初のオンライン開催でしたが、23名の受講生全員が無事に集まることができました。受講生はとても熱心に聞かれ、最後に自己紹介をして、次回に備えてブレイクアウトルームの体験をしました。



第2回

2021年8月22日(日) オンライン

意思疎通支援者の心構えと倫理／
身体介助の方法／支援

ブレイクアウトルームを使った
オンライン実習を
行いました。
たくさんの気づきがあり、
有意義な研修でした。

年 月 日

誓約書

一般社団法人 広島県言語聴覚士会
会長 時田泰樹殿

私は、失語症者向け意思疎通支援者養成研修を受講するにあたり、以下の事項を遵守することを、ここに誓います。

記

1. 失語症者向け意思疎通支援者は、失語症のある人の自己選択や自己決定の支援を通して、社会参加に寄与する事
2. 失語症のある人の基本的人権を擁護し、自己選択・自己決定を最大限に尊重する事
3. 失語症のある人のプライバシーを保護するために、支援上知り得た個人情報を守る事

以上

住所 _____

氏名 _____ 印 _____

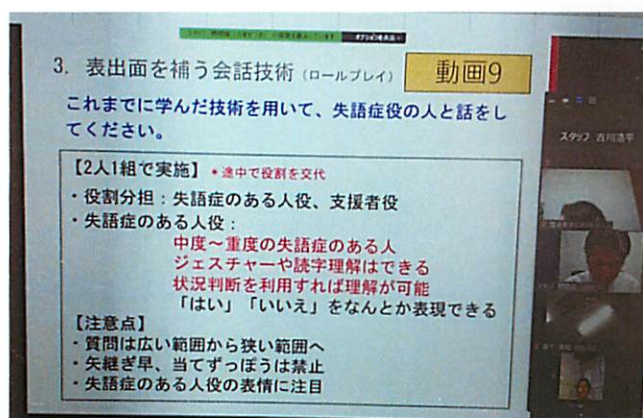


第3回

コミュニケーション支援技法／支援実習

2021年8月29日(日) オンライン

失語症の人の集まり「Green」のオンライン交流会を見学しました。交流会では、失語症の人が意思疎通支援者を交えて楽しそうに会話をしている姿を観察しました。研修修了後のイメージを具体的に思い浮かべる機会となり、受講生のモチベーションが高まりました。

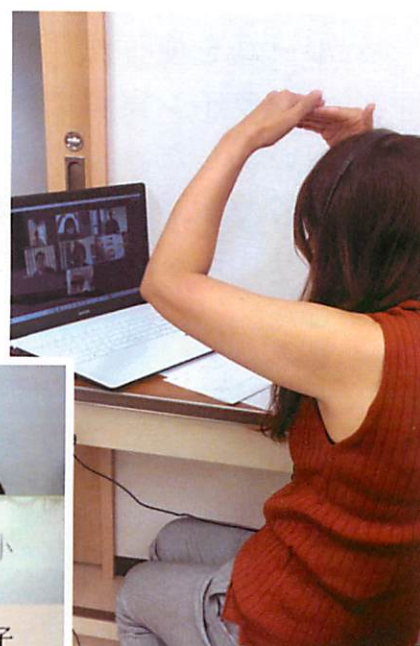


第4回・第5回

2021年9月5・12日(土) オンライン

4. 派遣事業と会話支援者の業務／
コミュニケーション支援実習
5. 失語症のある人の日常生活とニーズ／
コミュニケーション支援実習

受講生が2グループに分かれて実習を行いました。1つのグループは、失語症の人と会話やゲームを行いました。もう一方のグループは、受講生それぞれが「失語症の人役」と「支援者役」になり、「失語症の人役」が思い浮かべる単語を「失語症者役」が聞き出すという実習を行いました。最後に、振り返りを行いました。オンライン上で多数の意見交換が行われました。

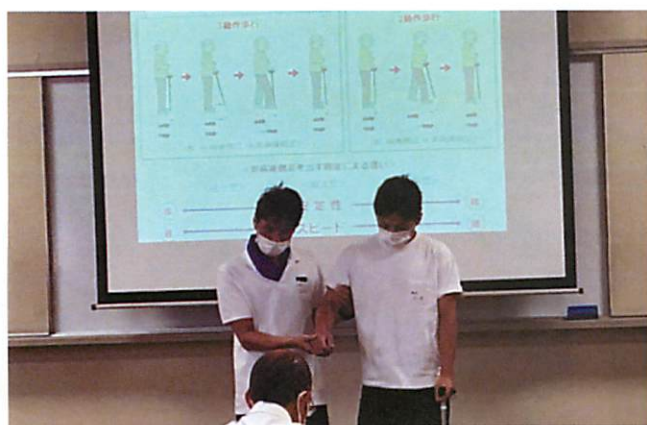


第6回

2021年10月3日(日) 福山

身体介助方法／身体介助実習

理学療法士、作業療法士の指導の下、身体介護実習を行いました。
車椅子の段差昇降に苦戦したり、階段時の介助にとまどいながら、気配り、目配りの大切さを学びました。



第7回

2021年10月31日(日) 福山

外出同行支援／外出同行支援実習

言語聴覚士が演じる模擬失語症者と外出同行支援実習を行いました。
どこに行きたいのか、地図を頼りに聞き出すことから始めました。
右不全麻痺を持つ失語症の人を想定して、歩行スピードや歩行の邪魔にならない距離感を保つことを学びました。



第8回

2021年11月7日(日) 福山

コミュニケーション支援技法／支援実習

失語症についての動画を供覧し、グループで話し合いました。改めて失語症の人のもどかしさ、辛さを感じました。実習では、やりとりに行き詰まることがありました。反省とともに、達成感も少しずつ感じられるようになりました。



第9回

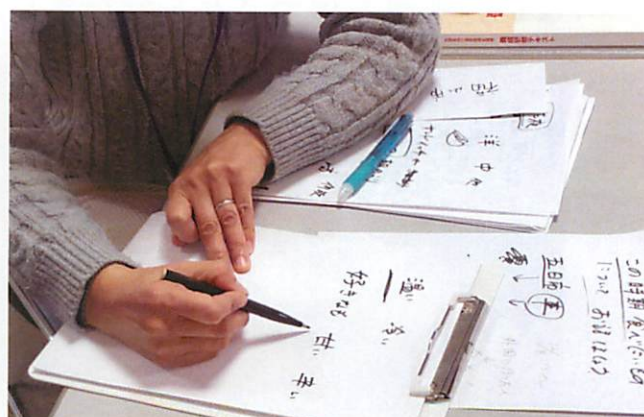
2021年12月8(水) 広島

コミュニケーション支援実習／認定テスト

失語症の人との会話支援の実習を行いました。

午後からはいよいよ認定テスト。

2020年度生と同様に失語症の人に評価者として入ってもらいました。



第10回

2022年1月9日(日) オンライン

コミュニケーション支援実習／修了式／
今後の活動について

午前中はオンラインで実習を行いました。

午後は、広島県健康福祉局障害者支援課 越智誠輝主査のご列席のもと、
2020年度生とともにオンライン修了式に臨みました。

2021年度は17名が修了しました。



□ 受講生のことば



錦織 翼

2020 年受講生

皆さんは失語症と聞いてどういったイメージを持たれるでしょうか？

漠然と言葉がしゃべれなくなる障害とっておられる方も多いのではと思います。

失語症とひと言で言ってもその症状は様々です。話すのが苦手な方もいれば、聞いて理解する方、読むこと、書くことが苦手な方など多岐に渡ります。そのため、それぞれの障害に合わせた会話支援が必要となります。

この研修では、失語症にはどういった症状があるのかといった基本的なところからコミュニケーション技法やその応用の仕方などを学ぶことができます。

また、失語症の人との交流を通じて意思疎通支援者の役割についても学ぶことができます。一部ではありますが、私がこの研修で学んだことをお伝えします。

失語症の概論では、自分達は何気なく行っている会話は聞く、理解する、言葉を話すといった脳の様々な機能によって支えられていること、そして、この中のいずれか一つでも障害されると、スムーズな会話が難しくなることを学びました。

コミュニケーション技法の研修では、文字の情報はなるべく少なく、絵や図などの活用法を学びました。この方法は、失語症の人だけでなく、すべての人にわかりやすい伝え方だと感じました。



失語症の会にも参加させていただき、実際に失語症の人と交流をしました。学んだことを実際に使うことの難しさを感じた半面、参加者の方々が、とても楽しそうにお話している姿を見て、自分たちの役割を実感することができました。

失語症意思疎通支援者になるには、長時間の研修受講が必要となりますが、私はこの研修に参加できて良かったと感じています。

失語症には、見た目では分かりづらいという特徴があります。そのため怠けている、努力が足りないといった間違った認識をされてしまうことも少なくありません。

失語症の人の支援は、まずは、失語症という障害を知ることから始まると思います。少しでも失語症について知りたいと思った方はぜひ、この研修にご参加ください。



川口 茉莉

2021 年受講生

私が研修に参加したきっかけは尾道市の広報誌でした。講義は主に言語聴覚士の方がテキストをもとに失語症に関する基本的な知識に加え、ご自身の経験なども交えてわかりやすく教えて下さいました。

演習後には振り返る時間が必ず設けられていたため、できるようになったことなどを具体化することができました。専門的知識を持ち、失語症の人と日々対峙されている言語聴覚士のアドバイスが頂けたことは、自分の伸ばす点をより明確に理解することに繋がりました。

初めはできなかったことも演習を重ねるごとにできるようになり、失語症の人と会話した際も、演習での経験が生きていることを感じ、自信になりました。



この研修で初めて失語症の存在や、失語症の人や周りの方などたくさんの方が困難を抱えていらっしゃることを知り、病気の有無に関わらず、

その方が意思を持ったひとりの人間であることに変わりないということ、そしてその意思は当然に尊重しなければならないと再確認しました。

支援者としてその方らしく生きていくためのコミュニケーション面でのお手伝いができることは、支援者自身の人生をも豊かにしてくれるような気がしてとても尊いことだと思います。私はこの気持ちをずっと心に留めておきたいです。

研修に出会わなかったら、失語症のことを知らないまま生きていたと思います。

幸いにも現代では、誰も取り残さない社会への気運が高まっているため、失語症のことを知る人が少し増えるだけでも、困難を抱える方の声が広く響き渡り、暮らしやすい社会に変わることに繋がると思います。

誰もが暮らしやすい社会になるよう、意思疎通支援者として支援に積極的に携わるだけでなく、同世代の若者に失語症について広め、認知度を高めることに貢献していきたいです。

支援者は特別なスキルを持った方というよりは、困っている誰かの力になりたい、なにか自分にできることをしたい等のやさしい想いを持っている方だと研修を通じて感じたので、一人でも多くの方に支援に携わって頂きたいです。

□ 支援 ST（支援言語聴覚士）のこぼ



齋藤美佳

広島市 支援 ST
ナカムラ病院



支援 ST として数回参加する機会を頂きました。私は普段、病院勤務の言語聴覚士(以下 ST)として、失語症の方の言語訓練に携わっています。

訓練等を通して失語症状の改善を図ることは、私たち ST の専門とするところかもしれません。

しかし、失語症の方が病院を退院され社会にでられた後、失語症について理解してくれる存在や、コミュニケーションを楽しめる場があることは、失語症の方にとって何より心強く安心できることなのではないでしょうか。

研修では、実際に失語症の方と会話を行う実習がありました。そこでは、思っていたよりうまく話がでなかったと感じた受講生が多くいらっしゃいました。

コミュニケーションの難しさは、私自身も日々、リハビリを通し実感しています。

どの受講生の皆様も、「失語症の人に楽しんでいただきたい」という思いを持っておられることを感じました。

描画や文字で会話内容の理解を促し、事前に盛り上がるような話題を準備し、その結果、会話を楽しんで帰られる失語症の人々の様子を見ると、コミュニケーションを楽しんで頂くことがいかに大切なことかを感じます。

今回の養成研修を通し、受講生の皆様が失語症の人々の生活を広げる頼もしい存在となれることを感じると共に、ST として、失語症の方が地域の中で過ごしやすいよう、今後も活動のお手伝いを行っていかれたらと思っています。

皆様のご活躍を心より願っております。



中野達也

福山・三原 支援 ST
駅家リハビリテーション SAKURA



この度、支援 ST として参加しました。受講生は、文字や描画、物品を使うといったコミュニケーション手段の引き出しが増えていったことだけでなく、表情や目線、相槌など、失語症の人が安心してコミュニケーションのとれる雰囲気作りへの配慮も増えていきました。

コロナ禍でのオンライン開催が多く、カメラを意識した文字や絵の提示や、会話の間合いの取り方など、私自身も考えさせられる部分が多くありました。受講生は、支援 ST の助言だけでなく、各自工夫を凝らしておられ、私自身とても勉強になりました。

受講生の年齢層は幅広く、目指したきっかけも異なりますが、「失語症の人への支援をしたい!」という熱い気持ちは共通しており、休憩時間での受講生同士のやり取りや、修了式での受講生同士のつながりがとても印象的でした。

失語症の人が地域の一員として安心して暮らせるよう、心強いサポーターが今後も増えていくことを切に願います。

支援 ST は、失語症者向け意思疎通支援者養成研修の実習サポートや失語症の人の集まり「Green」の活動を支えてくれている広島県言語聴覚士会に所属する言語聴覚士です。

□ アンケート結果 2018 年～2021 年

【初回時】※ グラフは各年度の回答数をもとにした割合です。



※ 2020 年度は一部データがありません。

回答数 / 受講生数

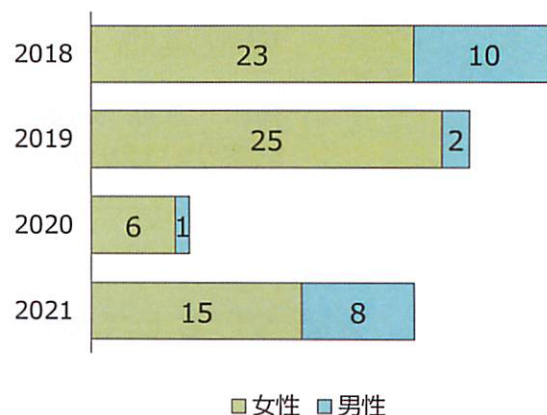
2018 年度 33 人 / 33 人

2019 年度 27 人 / 30 人

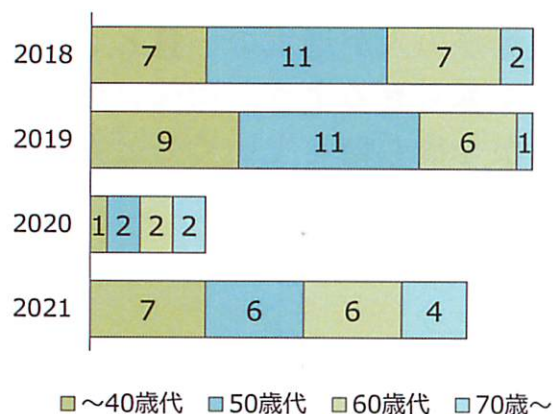
2020 年度 7 人 / 11 人

2021 年度 23 人 / 23 人

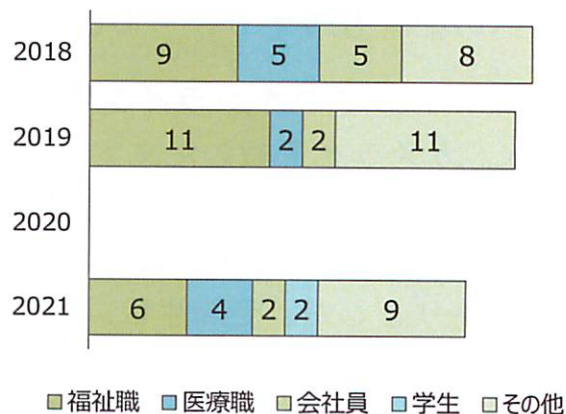
1. 性別



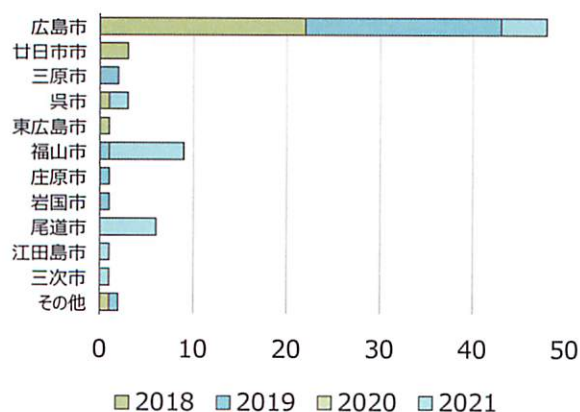
2. 年齢



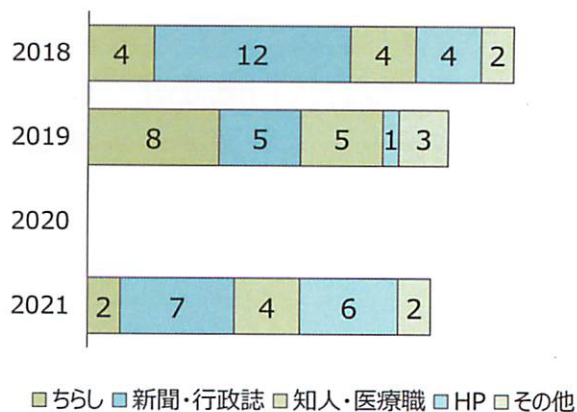
3. 職業



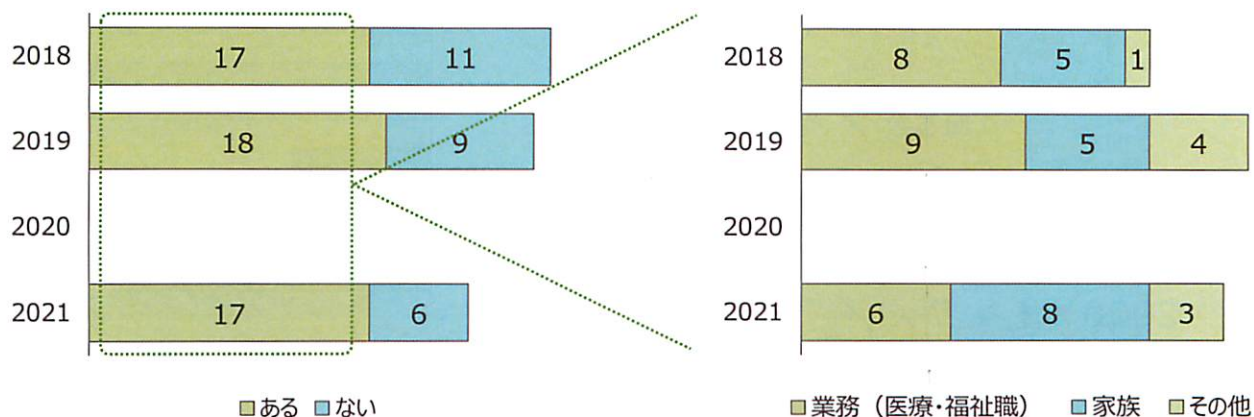
4. 居住地



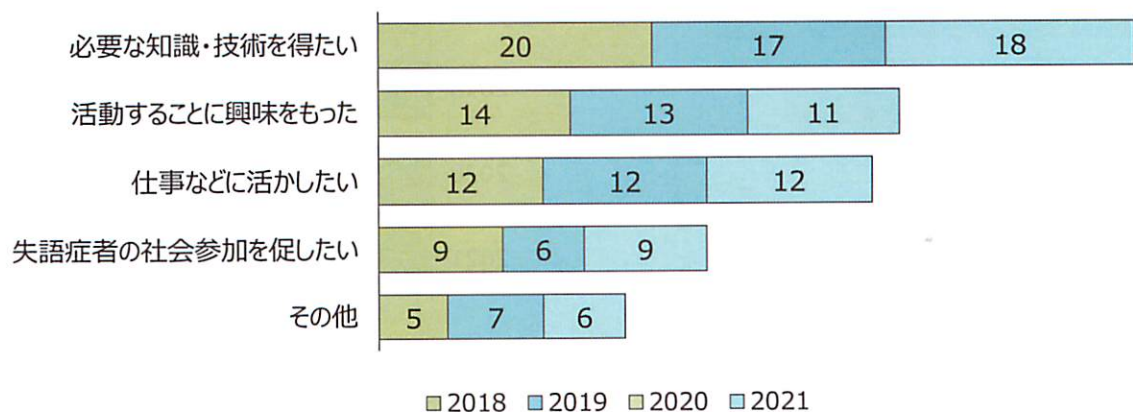
5. 養成研修の情報入手方法



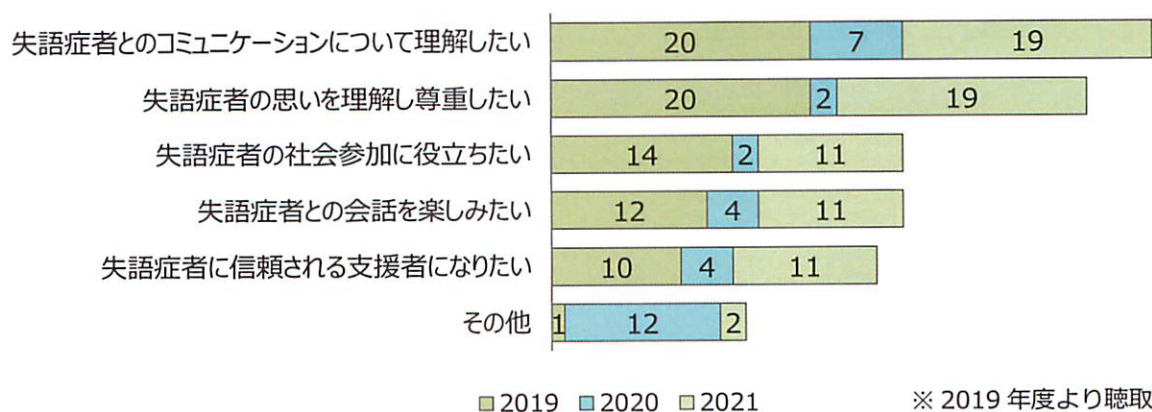
6. 失語症者と接した経験 → 「ある」 どこで接したことがありますか？



7. 受講の動機



8. どのような意思疎通支援者になり活動したいと思いますか？



※ 2019 年度より聴取

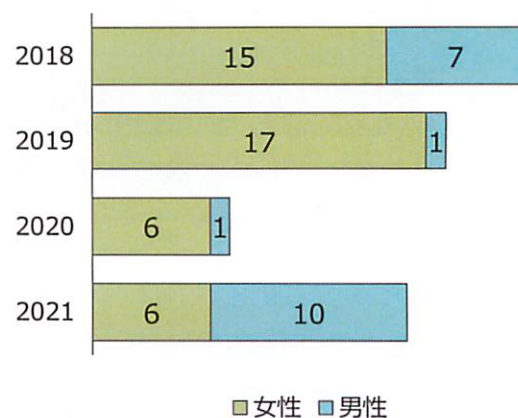
【修了時】※ グラフは各年度の回答数をもとにした割合です。



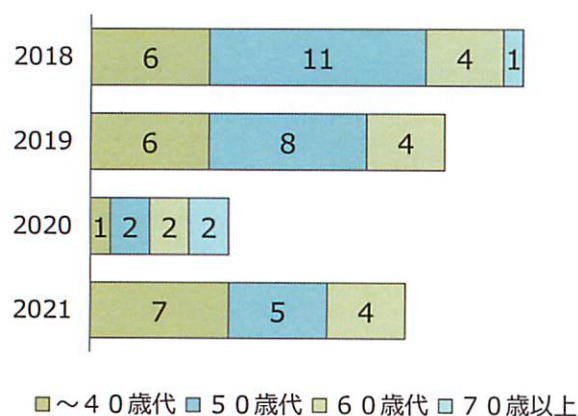
※ 未修了者を含む

	回答数 / 受講生数
2018 年度	22 人 / 23 人
2019 年度	18 人 / 19 人
2020 年度	7 人 / 7 人
2021 年度	16 人 / 17 人

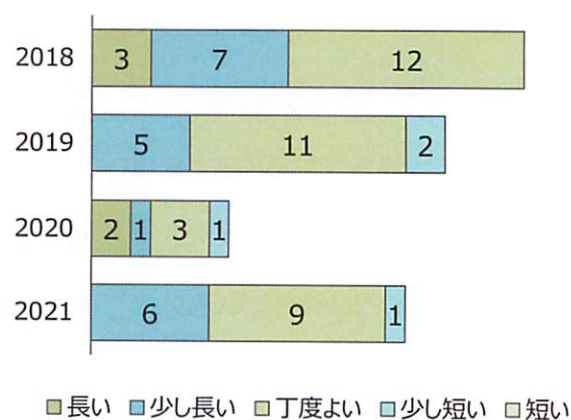
1. 性別



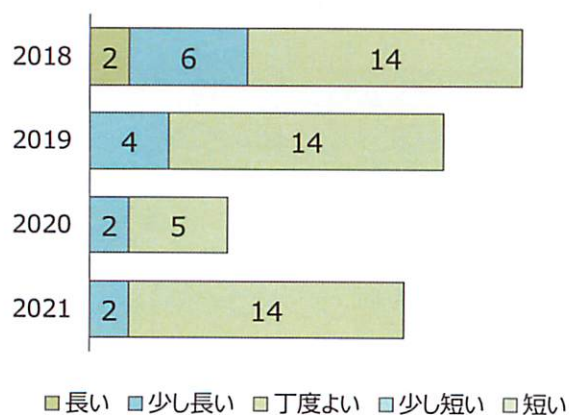
2. 年齢



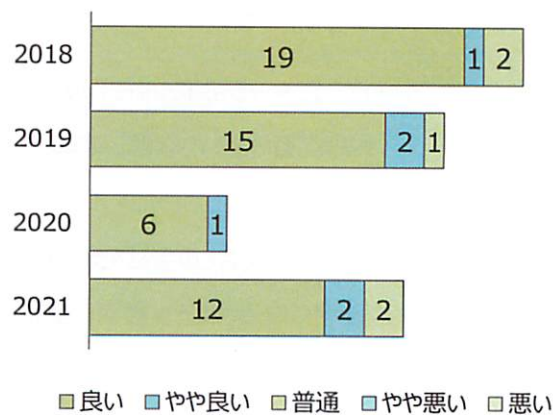
3. 研修全体の期間



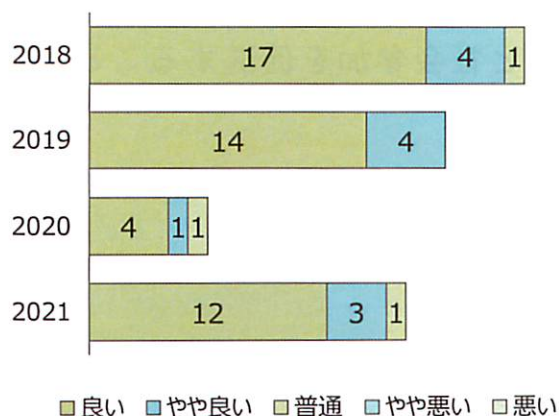
4. 講義時間



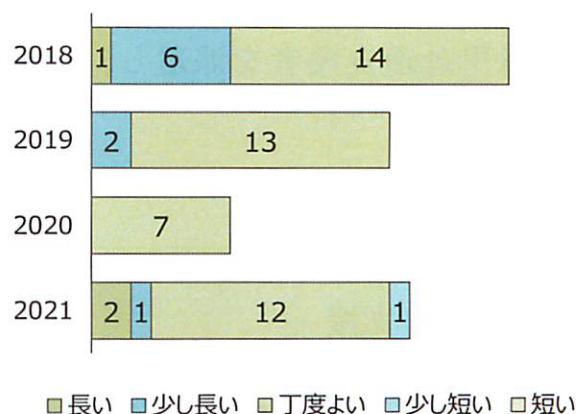
5. 講義内容



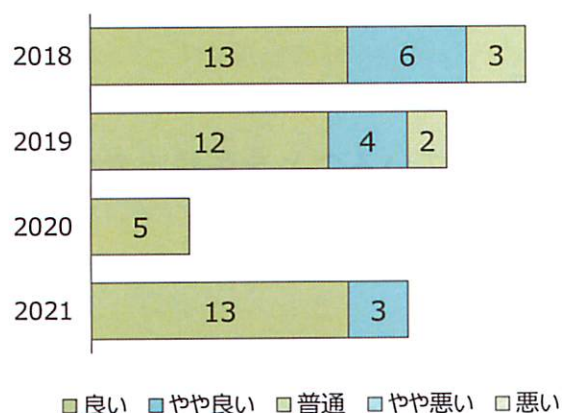
6. 受講生同士で行った実習内容



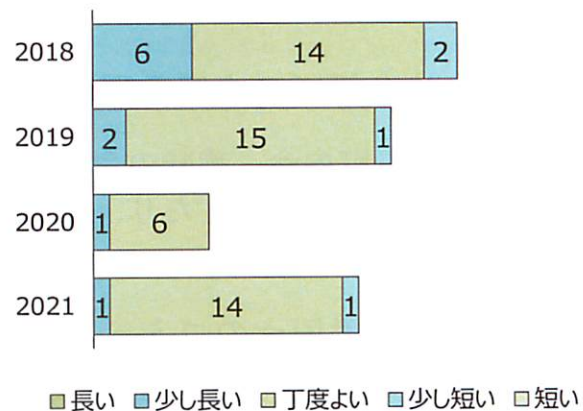
7. 受講生同士で行った受講時間



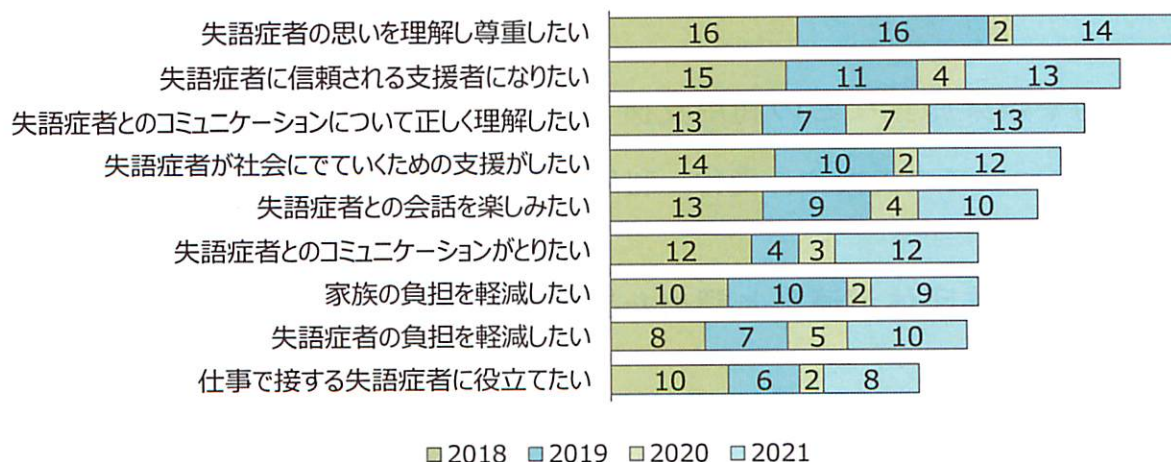
8. 失語症者で行った実習内容



9. 失語症者で行った実習時間



10. どのような意思疎通支援者になり活動したいと思いますか？



4. 失語症者向け意思疎通支援者派遣事業

目的

意思疎通支援者を派遣し、失語症者の自立と社会参加を促進すること

派遣事業内容

1. 外出支援

外出に同行して、他の人とのコミュニケーションの支援を行う。

2. 交通機関の利用支援

目的地に向かうために駅やバス停などを利用する場合、路線図や時刻表や表示板などの理解についての支援を行う。

3. 会や会議での内容を理解するための支援

会議（町内会、趣味の会など）などで、話されていることを失語症者にわかりやすく伝えたり、意見があるときはその支援を行う。

4. 失語症者同士のコミュニケーションの支援

失語症友の会やサロンなどに同行して、コミュニケーションの支援を行う。

5. 公共施設の利用支援

銀行や役所や郵便局などに同行して手続きなどの支援を行う。

6. 買い物や娯楽施設などの利用支援

買い物についての支援や、受付・利用システムなどの支援を行う。

7. その他、実施団体が適当と認めた支援を行う

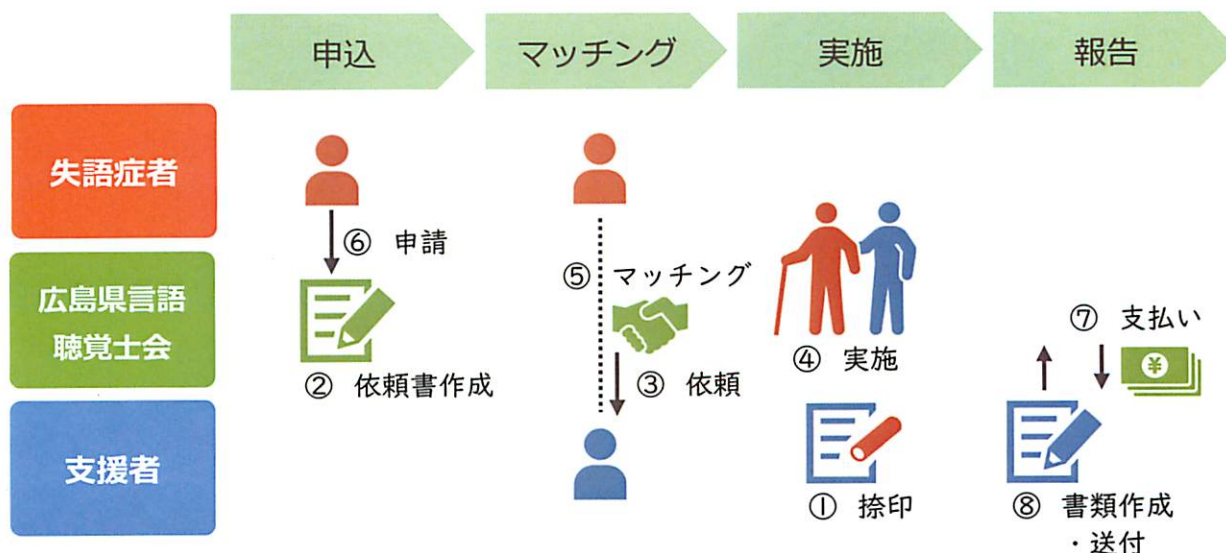
派遣事業の流れ

□ 登録



- ① 広島県言語聴覚士会に支援者登録（支援者）・利用登録（失語症者）の申請
- ② 広島県に申請書を送付
- ③ 登録完了の通知
- ④ 支援者証の発行

□ 利用

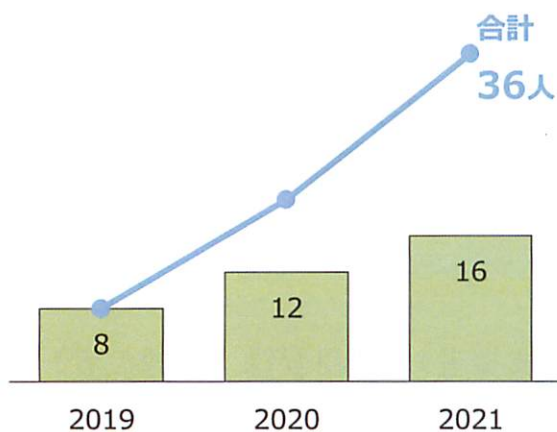


- ① 利用希望の申請
- ② 派遣依頼書を作成
- ③ 失語症者と支援者のマッチング
- ④ 支援者に派遣依頼
- ⑤ 支援を実施
- ⑥ 活動報告書に捺印または署名
- ⑦ 活動報告書・活動記録・交通費精算書の作成・送付
- ⑧ 謝礼金及び経費の支払い

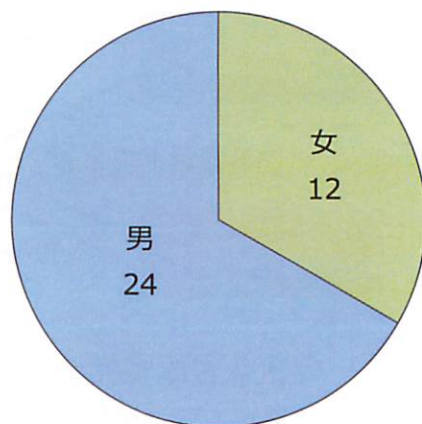
□ 実施状況

失語症の人 (36人)

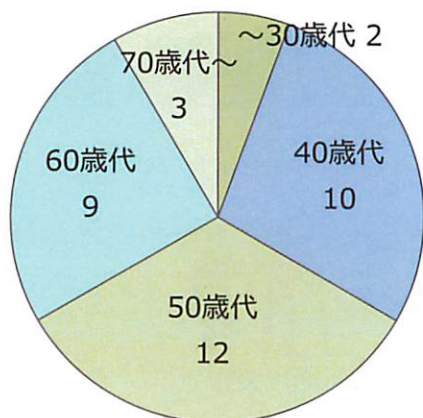
1. 登録者数



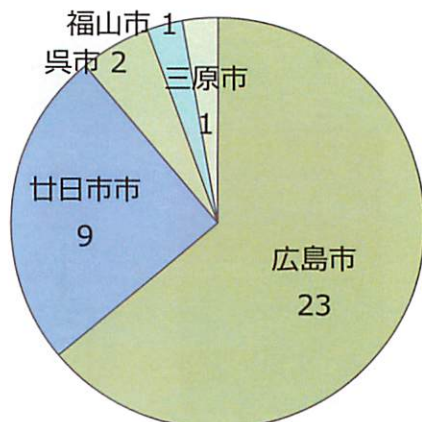
2. 性別



3. 年齢 (平均年齢 53.9 歳)

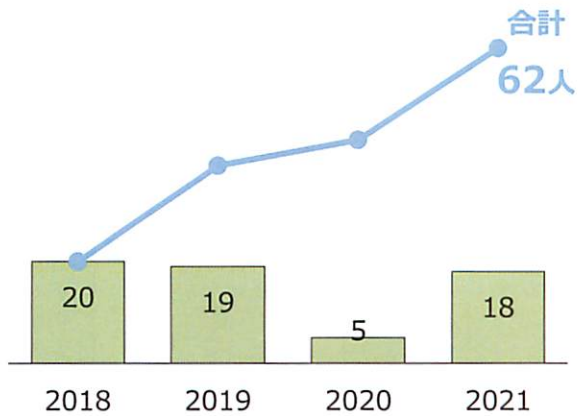


4. 居住地

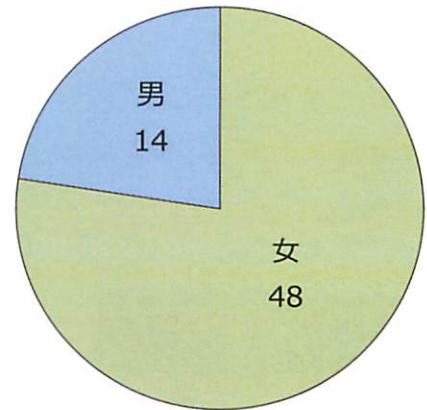


失語症者向け意思疎通支援者（62人）

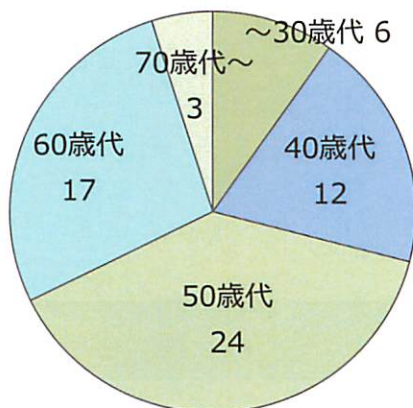
1. 登録者数



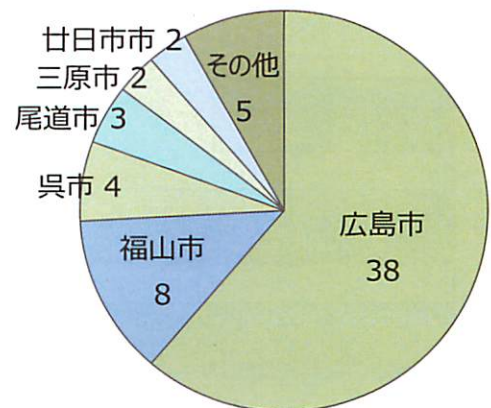
2. 性別



3. 年齢（平均年齢 54.7 歳）

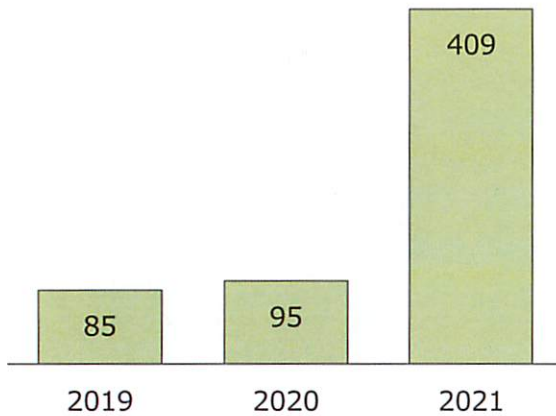


4. 居住地

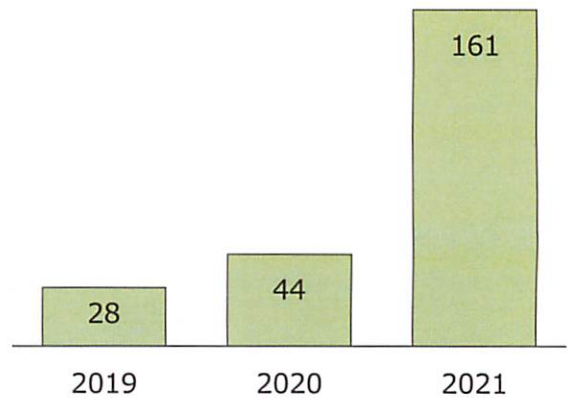


派遣時間・派遣件数

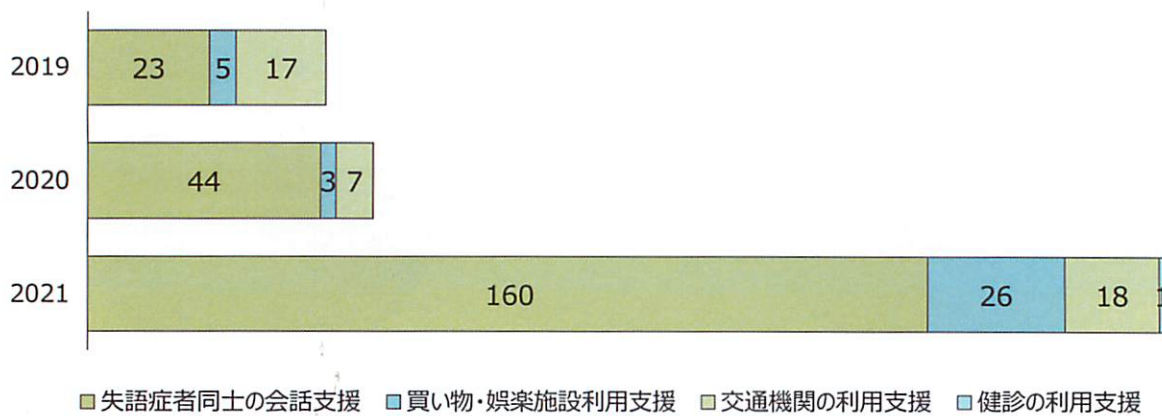
1. 派遣時間



2. 派遣件数



3. 派遣内訳



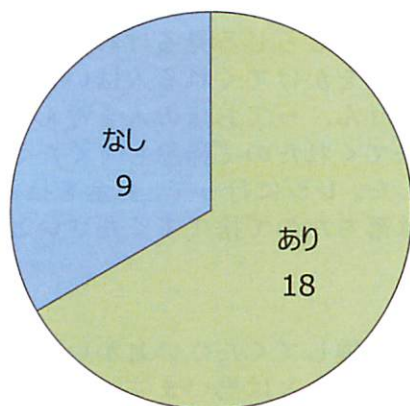
失語症支援グループ「パイオニア」

パイオニアは登録した
失語症者向け
意思疎通支援者の
活動グループです。

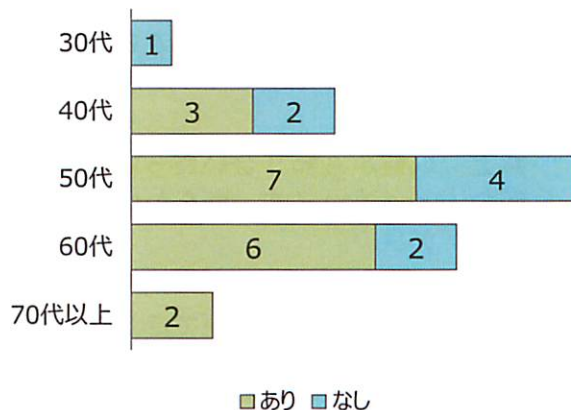


□ アンケート（回収率 69% 登録者 39 人中 27 人）

1. 過去一年以内の活動の有無

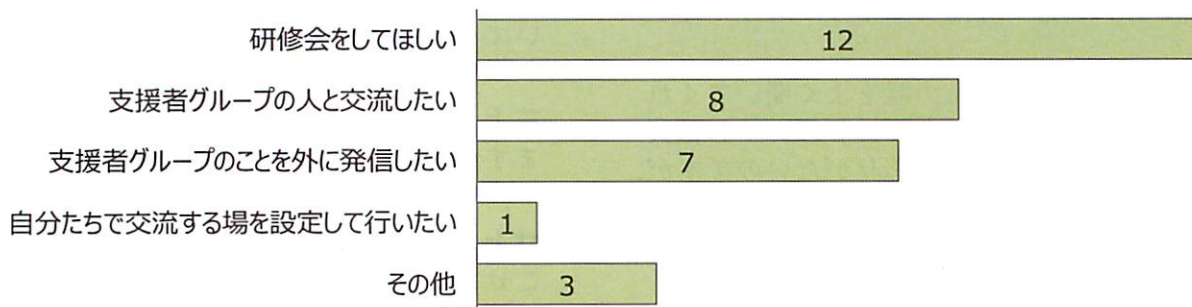


2. 年齢別過去一年以内の活動の有無



3. 活動あり（18 人）

1) 活動を継続するための要望は？（複数回答）



2) 今後どんな活動がしたいですか？（記述回答）

- 認知度を上げたい：失語症、意思疎通支援者のことを知ってもらいたい。
- 活動場面を拡大したい：失語症の人が望む支援を聞き出し、支援したい。
小グループでの外出支援など

4. 活動しなかった理由（9 人）



□ 失語症の人のことば

オンライン市民公開講座より

井上珠美さん

失語の会 Green



三上裕子さん

言語聴覚士



三上 失語症の会「Green」には「パイオニア」という支援グループの方も参加しておられますね。どうですか？

井上 以前から知り合いだったような。初対面の人とは違います。声をかけてくれるタイミングが良い。

すぐに打ち解けることができます。とにかく話やすいです。失語症の人は話したいけど、話せないです。それをパイオニアさんは聞こうとしてくれる。失語の人同士でも話したい。Greenではそれができる。この会で笑い合えるのがいいです。

三上 買物は1人で不安があるということ、家族にお願いすることが多いですか？

井上 はい。家族は私の話をよく聞いてくれます。こんなの買ってきてとお願いすれば買ってきてくれる。それでもありがたいのですが、例えば賞味期限などをみてないなあとかを主婦は思ってしまうのです。

三上 うんうん、自分で選びたいですね。お一人で買い物にチャレンジされたことはありますか？

井上 はい一見普通の道にみえるのですが、障害を持っている人は集中して歩かないといけな道ばかりです。でも、がんばって近くの店に一人でいきました。

三上 なにか、買い物をされたのですか？

井上 はい、買い物は出来ましたが、色々あって・・・右マヒがあるので、左手で杖と花をもって、コロッケも持ってレジまで行けるだろうと思ったのですが、コロッケが床に落ちてしまいました。

コロッケが落ちて、どうすればいいか困って。他の人は、じろじろ見るけれど、大丈夫ですかって声をかけてくれる人はいませんでした。すみません、ってお店の人を呼んで、お店の人が来てくれたので掃除してくださいって言いました。レジに行って、お金を払って、コロッケは落ちたので捨ててくださいと言いました。

三上 交換してくださいとかいう交渉って、とても難しいと思います。わかってくれない、こういう社会って悔しいですね。

井上 情けないなあって思いました。パイオニアさんと一緒に出かけると、例えばレジの支払いとかできないところをずっと助けてくれます。大丈夫かどうか確認してくれます。いてくれると安心します。

三上 パイオニアさんにはどんなことを望みますか？

井上 パイオニアさんとはとにかく楽しく過ごせます。自分の病気のこととかをわざわざ話さなくても、その次の楽しい会話になるのがいいです。悩みとかを深刻に話す相手とは敢えて違うのがいいです。パイオニアさんは一緒に楽しいことができる家族以外の存在、それがいいです。

三上 井上さんご自身も失語症を広めていきたいという思いをもって活動されています。最後に一言お願いできますか。

井上 引き続き、私も発信していきたいです。パイオニアさんを目指す方が多く、若い人もたくさん参加してくれることがうれしいです。失語症という病気を知らない人がまだまだ多いけど、パイオニアさんが増えていくことで少しずつ周知されていくと思います。

□「パイオニア」のことは

オンライン市民公開講座より

原田健二さん

失語症者向け意思疎通支援者
グループ「パイオニア」代表

沖田啓子さん

言語聴覚士

沖田 養成研修を無事に修了され活動を開始し、実際に活動を通して気持ちの変化がありましたか？

原田 修了後、広島県の「失語症者向け意思疎通支援者」として登録を致しました。また、失語症者向け意思疎通支援者グループ「パイオニア」を立ち上げて、平成31年から活動しています。今年4年目になります。実際の支援内容は、失語症の方の集まりである「もみじ」の会や「Green」の会で会話支援をしています。

いずれは、私たち「パイオニア」が少人数でもいいので、支援者、失語症の方が集まる場を作っていきたいと考えています。

実際の対面での支援は、話の内容を伝える、相手の言葉を引き出すことをしますが、例えば、好きな料理のことで「お好み焼きにマヨネーズをかけない」というこだわりが共通にあることがわかった時に、お互いに「それ！」と共感したりですね、「へえーそうなんですね！」と新しい発見があった時に笑顔になれて嬉しいです。

沖田 失語症の人同士はなかなか話せないのですが、そういうところにも支援者の方は、入っていらっしゃるのですか？

原田 はい、入っていますね。失語症の人同士の意見をなんとかまとめられると「良かった、うまくいった」とホッとします。以前、オンライン交流の時に、もう1人の支援者と2人で打ち合わせをしたわけでもないのですが、阿吽の呼吸のように会話支援ができたことがありました。「おっ、できているじゃないか！」と内心ガッツポーズでした。

沖田 今後意思疎通支援者としてどのような活動をしていきたいと考えていますか？

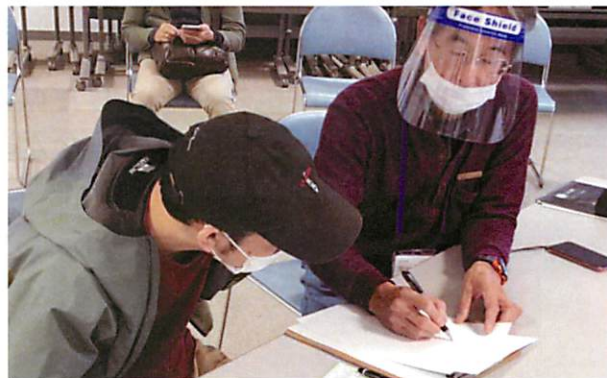
原田 4つあります。1つ目は個別支援を増やしていき、社会生活の中での失語症者の人への支援を広げていきたいと思っています。2つ目として、失語症者支援グループ「パイオニア」として成長していきたいです。例えば、NPO法人「和音」はいい手本かなと思っています。平成30年の市民公開講座に「和音」の方が講演に来られていましたが、「パイオニア」が他の活動に呼ばれるくらい実績を積むことができたらいいいですね。

3つ目として、個人的には即興演劇の手法インプロゲームやシアターゲームが役に立つのではないかなと思って、皆さんに伝えたいです。失語症の方も交えて一緒に楽しめたらと思います。インプロゲームというのは、元々役者のトレーニングゲームなのですが、単語を繋げる、体を動かすなど誰でもできる簡単なコミュニケーション遊びです。

先日、失語症の方と支援者の方、それから私の仲間4人で実際にやってみました。

初めての試みでしたが工夫次第で、一緒に楽しめそうです。

そして4つ目。西日本豪雨災害の時に、失語症の方は実際にどう対応していたのだろうか、と、実態を調べて失語症者向け災害ハンドブックのようなものが作れたらいいなと思っています。



運営スタッフのことば

東部ブロック 市本将也

今年度、初めて広島県の東部地区で意思疎通支援者養成研修が開催される事となり、運営スタッフの一員として関わらせて頂きました。参加をさせて頂き、受講生の方の「コミュニケーションが取りたい」、「わかりたい」、「会話の技術を高めたい」という熱意を強く感じ、非常に心強く感じました。受講生の方は人生の先輩方が多く、私も学ばせて頂く事が沢山ありました。運営の中では主に、研修の補助をする支援STの募集・調整に関わらせて頂きました。普段の業務の傍に多数の参加を頂き、大変感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

この事業は失語症の人の活動・参加を拡大するために非常に重要な役割を担っていると思います。それと同時に言語聴覚士の活躍の場の拡大・言語聴覚士同士の輪を拡げる事にも繋がる事業でもあると認識しました。今後も微力ながら、この事業のお力になればと思っております。

東部ブロック 小山善仁

今年度より意思疎通支援者養成研修の運営スタッフとして参加いたしました。

コロナ禍でもあり、オンライン開催も検討しなければならず「この状況下で皆さまにご満足いただくには、どの様にすれば良いか」がスタッフ全員のテーマであった1年間だったと思います。研修を重ねるたびに受講生の会話技術が向上するのを見ると「良かった」とホッとする反面、「もっと工夫できたはず」と反省することもあり、運営スタッフのやりがい、難しさを実感しました。本事業は県民の皆さま、支援を必要とする失語症の皆さまが主役です。言語聴覚士は皆さまをそっと支え、つなぐ黒子となり、お困りの時に「ここに居ますよ!」と言えるような存在でありたいと思っています。

次年度も福山市を中心とした県東部での開催が予定されています。支援言語聴覚士の協力をさらに増やしなが、ますます充実した研修にしていきたいと思っています。

東部ブロック 野間睦

一昨年前、「2021年度の意思疎通支援者養成研修を東部ブロック主催で開催する」と、お話を聞いた時には、「運営スタッフが集まるのだろうか」と不安な気持ちで、同じ運営スタッフの小山先生と顔を見合わせたことを覚えています。また、慣れない地での開催に加えて、新型コロナウイルスの影響で対面での研修を、多くの部分でオンラインに変更せざるをえない、例年とは違う研修会となりました。

そういった不安のなかでの研修会でしたが、支えになったのは受講生の「思い」でした。ある方は、家族のために、またある方は、まだ見ぬ失語症の人のため、どの方も共通してある思いは「あなたと気持ちを通わせたい」でした。まさにSTの真髄です。この思いが運営スタッフと受講生を繋ぎ、失語症当事者、地域のST、そして社会へと繋げていく活動なのだと感じました。今年度研修会の運営に携われたことは、私にとっても非常に貴重な経験となりました。

スタッフ

□ 協力作業療法士

矢田かおり

□ 協力理学療法士

沖本祥子 三上友樹 大津恭孝

□ 協力言語聴覚士

浅海早紀 梅原利恵 大迫誉 大野萌子 柏原真紀 後藤優佳 五郎水敦
齋藤美佳 田邊弥生 津田哲也 時田春樹 中野達也 中村文 日野美香
日山絵里 平山孝子 船川亜沙子 坊岡峰子 細川淳嗣 本多洋平
松原かほり 松本恵 三縞明希子 光貞祐季 向原侑菜 村上光裕
村田葵衣 矢守麻奈 横山千晶 渡辺泉

□ 失語症者向け意思疎通支援者作業部会

板倉香 市本将也 岩田真由美 沖田啓子 小山善仁 木元美也子
野間睦 本多留美 三上裕子 水戸裕香 蓑田直子 山下真樹 山田亜紀子
山田那々恵 吉川浩平

編集後記

失語症者向け意思疎通支援者事業の報告書をお届け致します。コロナ禍での運営となりましたが、人と人との繋がり大切さ、その手段の多様性を感じる機会となりました。報告書を読み進める中で、失語症の人の思い、「パイオニア」で活動する意思疎通支援者の思いに触れ、これからの展開に「私に何かできることはないか！」と感じられるのではないのでしょうか。報告書作成にあたり、ご協力頂きました皆様にこの場をお借りし感謝申し上げます。

2020・2021 広島県失語症者向け意思疎通支援者 養成事業・派遣事業 実施報告書

2022 年 4 月発行

発行者 一般社団法人 広島県言語聴覚士会
〒731-5135 広島市佐伯区海老園一丁目 5-40

印刷所 青木印刷株式会社
〒737-2518 呉市安浦町内海北 2-1-6
TEL 0823-84-2104

